


キジカクシ	<i>Asparagus schoberioides</i> Kunth	絶滅危惧Ⅱ類
		ユリ科
選定理由	個体数が激減している。	写真(高橋弘)
形態の特徴	茎は高さ50-100cm、葉は広卵形、長さ約1mm、腋から葉状枝が数個出る。葉状枝は線形、長さ1-2cm、少し湾曲する。雌雄異株。茎や枝に小さな花を多数つける。花柄は約1mm。花被片は長さ2-3mm、淡褐色。液果は赤く熟す。	
生態的特徴	林縁や草地に生育する多年草。花期は5-6月。	
分布状況	極東に分布し、日本では北海道から九州まで見られる。岐阜県では県北の南部と県南の中部と西部に少し見られるのみ。標高は500m以下である。	
減少要因	開発による生育地、特に草地の破壊。	
保全対策	生育地の保全。	
特記事項		
参考文献		

文責: 高橋弘